

[1] 次の関数の増減を調べよ。

(1) $y = x - 2\sqrt{x}$

(2) $y = \frac{x^3}{x-2}$

(3) $y = 2x - \log x$

[2] 次の関数の極値を求めよ。

(1) $y = xe^{-x}$

(3) $y = \frac{x+1}{x^2+x+1}$

(5) $y = |x|\sqrt{4-x}$

(2) $y = \frac{3x-1}{x^3+1}$

(4) $y = (1-\sin x)\cos x \quad (0 \leq x \leq 2\pi)$

(6) $y = (x+2) \cdot \sqrt[3]{x^2}$

[3] 関数 $f(x) = \frac{e^{kx}}{x^2+1}$ (k は定数)について(1) $f(x)$ が $x = -2$ で極値をとるとき, k の値を求めよ。(2) $f(x)$ が極値をもつとき, k のとりうる値の範囲を求めよ。

4 関数 $f(x) = \frac{ax^2 + bx + c}{x^2 + 2}$ は $x = -2$ で極小値 $\frac{1}{2}$, $x = 1$ で極大値 2 をとる。このとき、定数 a , b , c の値を求めよ。

5 次の関数の最大値、最小値を求めよ。(1), (2) では $0 \leq x \leq 2\pi$ とする。

(1) $y = \sin 2x + 2\sin x$

(2) $y = \sin x + (1-x)\cos x$

(3) $y = x + \sqrt{1-4x^2}$

(4) $y = (x^2 - 1)e^x$ ($-1 \leq x \leq 2$)

6 次の関数に最大値、最小値があれば、それを求めよ。

(1) $y = \frac{x^2 - 3x}{x^2 + 3}$

(2) $y = e^{-x} + x - 1$

7 関数 $f(x) = \frac{a \sin x}{\cos x + 2}$ ($0 \leq x \leq \pi$) の最大値が $\sqrt{3}$ となるように定数 a の値を定めよ。

8 関数 $f(x) = \frac{x+a}{x^2+1}$ ($a > 0$) について、次のものを求めよ。

- (1) $f'(x) = 0$ となる x の値
- (2) (1)で求めた x の値を α, β ($\alpha < \beta$) とするとき、 β と 1 の大小関係
- (3) $0 \leq x \leq 1$ における $f(x)$ の最大値が 1 であるとき、 a の値

9 3 点 O(0, 0), A($\frac{1}{2}, 0$), P($\cos \theta, \sin \theta$) と点 Q が、条件 $OQ = AQ = PQ$ を満たす。

- ただし、 $0 < \theta < \pi$ とする。
- (1) 点 Q の座標を求めよ。
 - (2) 点 Q の y 座標の最小値とそのときの θ の値を求めよ。

10 半径 1 の球に、側面と底面で外接する直円錐を考える。この直円錐の体積が最小となるとき、底面の半径と高さの比を求めよ。

[1] 次の関数の増減を調べよ。

(1) $y = x - 2\sqrt{x}$

(2) $y = \frac{x^3}{x-2}$

(3) $y = 2x - \log x$

- 解答** (1) $0 \leq x \leq 1$ で単調に減少し, $1 \leq x$ で単調に増加する
 (2) $x < 2$, $2 < x \leq 3$ で単調に減少し, $3 \leq x$ で単調に増加する

- (3) $0 < x \leq \frac{1}{2}$ で単調に減少し, $\frac{1}{2} \leq x$ で単調に増加する

解説(1) 定義域は $x \geq 0$ である。

$$y' = 1 - 2 \cdot \frac{1}{2\sqrt{x}} = \frac{\sqrt{x} - 1}{\sqrt{x}}$$

 $y' = 0$ とすると $x = 1$ よって, y の増減表は右のようになる。

したがって,

 $0 \leq x \leq 1$ で単調に減少し, $1 \leq x$ で単調に増加する。(2) 定義域は $x \neq 2$ である。

$$y' = \frac{3x^2(x-2) - x^3 \cdot 1}{(x-2)^2} = \frac{2x^2(x-3)}{(x-2)^2}$$

 $y' = 0$ とすると $x = 0, 3$ よって, y の増減表は右のようになる。

したがって,

 $x < 2$, $2 < x \leq 3$ で単調に減少し,
 $3 \leq x$ で単調に増加する。(3) 定義域は $x > 0$ である。

$$y' = 2 - \frac{1}{x} = \frac{2x-1}{x}$$
 $y' = 0$ とすると $x = \frac{1}{2}$

よって, y の増減表は右のようになる。

したがって,

 $0 < x \leq \frac{1}{2}$ で単調に減少し,
 $\frac{1}{2} \leq x$ で単調に増加する。

x	0	...	1	...
y'	/	-	0	+
y	0	↘	-1	↗

x	...	0	...	2	...	3	...
y'	-	0	-	/	-	0	+
y	0	↘	0	↘	/	27	↗

x	0	...	$\frac{1}{2}$...
y'	-	0	+	
y	1	↘	0	↗

[2] 次の関数の極値を求めよ。

(1) $y = xe^{-x}$

(2) $y = \frac{3x-1}{x^3+1}$

(3) $y = \frac{x+1}{x^2+x+1}$

(4) $y = (1 - \sin x)\cos x$ ($0 \leq x \leq 2\pi$)

(5) $y = |x|\sqrt{4-x}$

(6) $y = (x+2) \cdot \sqrt[3]{x^2}$

- 解答** (1) $x=1$ で極大値 e^{-1} (2) $x=1$ で極大値 1

- (3) $x=-2$ で極小値 $-\frac{1}{3}$, $x=0$ で極大値 1

- (4) $x=\frac{7}{6}\pi$ で極小値 $-\frac{3\sqrt{3}}{4}$, $x=\frac{11}{6}\pi$ で極大値 $\frac{3\sqrt{3}}{4}$

- (5) $x=\frac{8}{3}$ で極大値 $\frac{16\sqrt{3}}{9}$, $x=0$ で極小値 0

- (6) $x=-\frac{4}{5}$ で極大値 $\frac{12\sqrt[3]{10}}{25}$, $x=0$ で極小値 0

解説

(1) $y' = e^{-x} - xe^{-x} = e^{-x}(1-x)$

$y' = 0$ とすると $x=1$

増減表は右のようになる。

よって $x=1$ で極大値 e^{-1}

(2) $x^3 + 1 = (x+1)(x^2 - x + 1)$ であるから, 定義域は

$$y' = \frac{3(x^3 + 1) - (3x - 1) \cdot 3x^2}{(x^3 + 1)^2} = \frac{-3(2x^3 - x^2 - 1)}{(x^3 + 1)^2}$$

$$= \frac{-3(x-1)(2x^2 + x + 1)}{(x^3 + 1)^2}$$

$y' = 0$ とすると $x=1$

増減表は右のようになる。

よって $x=1$ で極大値 1

(3) $y' = \frac{x^2 + x + 1 - (x+1)(2x+1)}{(x^2 + x + 1)^2} = -\frac{x(x+2)}{(x^2 + x + 1)^2}$

$y' = 0$ とすると $x=-2, 0$

増減表は右のようになる。

よって $x=-2$ で極小値 $-\frac{1}{3}$, $x=0$ で極大値 1

(4) $y' = -\cos x \cdot \cos x + (1 - \sin x)(-\sin x) = -1 + \sin^2 x - \sin x + \sin^2 x$
 $= 2\sin^2 x - \sin x - 1 = (\sin x - 1)(2\sin x + 1)$

 $0 \leq x \leq 2\pi$ の範囲で $y' = 0$ を解くと

$\sin x - 1 = 0$ から $x = \frac{\pi}{2}$, $2\sin x + 1 = 0$ から $x = \frac{7}{6}\pi, \frac{11}{6}\pi$

増減表は次のようになる。

x	0	...	$\frac{\pi}{2}$...	$\frac{7}{6}\pi$...	$\frac{11}{6}\pi$...	2π
y'	-	0	-	0	+	0	-		
y	1	↘	0	↘	極小	↗	極大	↘	1

$x = \frac{7}{6}\pi$ で極小値 $-\frac{3\sqrt{3}}{4}$, $x = \frac{11}{6}\pi$ で極大値 $\frac{3\sqrt{3}}{4}$

(5) 定義域は, $4-x \geq 0$ から $x \leq 4$

$0 \leq x \leq 4$ のとき, $y = x\sqrt{4-x}$ であるから, $0 < x < 4$ では

$$y' = \sqrt{4-x} - \frac{x}{2\sqrt{4-x}} = \frac{8-3x}{2\sqrt{4-x}}$$

この範囲で $y' = 0$ となる x の値は $x = \frac{8}{3}$

x < 0 のとき $y = -x\sqrt{4-x}$

ゆえに, $x < 0$ では $y' = -\frac{8-3x}{2\sqrt{4-x}} < 0$

関数 $y = |x|\sqrt{4-x}$ は $x=0, 4$ で微分可能ではない。増減表は右のようになる。

よって $x = \frac{8}{3}$ で極大値 $\frac{8}{3}\sqrt{\frac{4}{3}} = \frac{16\sqrt{3}}{9}$, $x=0$ で極小値 0

(6) $y' = \sqrt[3]{x^2} + (x+2) \cdot \frac{2}{3}x^{-\frac{1}{3}} = \frac{1}{3\sqrt[3]{x}}(3x+2x+4) = \frac{5x+4}{3\sqrt[3]{x}}$

x	...	1	...
y'	+	0	-
y	↗	極大	↘

x	...	-1	...
y'	+	0	-
y	↗	極大	↘

x	...	-2	...	0	...
y'	-	0	+	0	-
y	↘	極小	↗	極大	↘

$y' = 0$ とすると $x = -\frac{4}{5}$

関数 $y = (x+2) \cdot \sqrt[3]{x^2}$ は $x=0$ で微分可能ではない。増減表は右のようになる。

よって $x = -\frac{4}{5}$ で極大値 $\frac{6}{5} \cdot \sqrt[3]{\frac{16}{25}} = \frac{12\sqrt[3]{10}}{25}$,
 $x=0$ で極小値 0

x	...	$-\frac{4}{5}$...	0	...
y'	+	0	-		+
y	↗	極大	↘	極小	↗

[3] 関数 $f(x) = \frac{e^{kx}}{x^2 + 1}$ (k は定数)について

- (1) $f(x)$ が $x=-2$ で極値をとるとき, k の値を求めよ。

- (2) $f(x)$ が極値をもつとき, k のとりうる値の範囲を求めよ。

解答 (1) $k = -\frac{4}{5}$ (2) $-1 < k < 1$

解説

$$f'(x) = \frac{ke^{kx}(x^2 + 1) - e^{kx} \cdot 2x}{(x^2 + 1)^2} = \frac{e^{kx}(kx^2 - 2x + k)}{(x^2 + 1)^2}$$

$f'(x) = 0$ とすると, $e^{kx} > 0$, $x^2 + 1 > 0$ から $kx^2 - 2x + k = 0$

$g(x) = kx^2 - 2x + k$ とする。

(1) $f(x)$ が $x=-2$ で極値をとるとき $g(-2) = 0$

ここで $g(-2) = 4k + 4 + k = 5k + 4$ よって, $5k + 4 = 0$ から $k = -\frac{4}{5}$

このとき $g(x) = -\frac{4}{5}x^2 - 2x - \frac{4}{5} = -\frac{2}{5}(x+2)(2x+1)$

$g(x) = 0$ すなわち $f'(x) = 0$ を満たす x の値は $x = -2, -\frac{1}{2}$

$$\frac{e^{kx}}{(x^2 + 1)^2} > 0$$
 であるから, $f(x)$ の増減表は右のようになる。

よって $k = -\frac{4}{5}$

(2) $f(x)$ が極値をもつとき, $f'(x) = 0$ すなわち $g(x) = 0$ となる x の値 c があり, $x=c$ の前後で $g(x)$ の符号が変わる。

[1] $k=0$ のとき $g(x)=0$ とすると, $-2x=0$ から $x=0$

$g(x)$ の符号は $x=0$ の前後で正から負に変わるので, $f(x)$ は極値をもつ。

[2] $k \neq 0$ のとき 2次方程式 $g(x)=0$ の判別式 D について $D > 0$

$$\frac{D}{4} = (-1)^2 - k \cdot k = -(k+1)(k-1)$$
 であるから $(k+1)(k-1) < 0$

$k \neq 0$ であるから $-1 < k < 0, 0 < k < 1$

このとき, $g(x)$ の符号は $x=c$ の前後で変わるから, $f(x)$ は極値をもつ。

以上から, 求める $k</$

$$f'(x) = \frac{(2ax+b)(x^2+2)-(ax^2+bx+c)\cdot 2x}{(x^2+2)^2} = \frac{-bx^2+(4a-2c)x+2b}{(x^2+2)^2}$$

$x=-2$ で極小値 $\frac{1}{2}$ をとるから $f(-2)=\frac{1}{2}$, $f'(-2)=0$

$x=1$ で極大値 2 をとるから $f(1)=2$, $f'(1)=0$

$$f(-2)=\frac{1}{2} \text{ から } 4a-2b+c=3 \quad \dots \dots \textcircled{1}$$

$$f(1)=2 \text{ から } a+b+c=6 \quad \dots \dots \textcircled{2}$$

$$f'(-2)=0, f'(1)=0 \text{ から } 4a+b-2c=0 \quad \dots \dots \textcircled{3}$$

$$\textcircled{1} \sim \textcircled{3} \text{ を解いて } a=1, b=2, c=3$$

逆に, $a=1, b=2, c=3$ のとき $f(x)=\frac{x^2+2x+3}{x^2+2}$ $\dots \dots \textcircled{4}$

$$f'(x)=\frac{-2x^2-2x+4}{(x^2+2)^2}=\frac{-2(x+2)(x-1)}{(x^2+2)^2}$$

x	...	-2	...	1	...
$f'(x)$	-	0	+	0	-

$f'(x)=0$ とすると $x=-2, 1$

関数 $\textcircled{4}$ の増減表は右のようになり, 条件を満たす。

よって $a=1, b=2, c=3$

x	...	-2	...	1	...
$f'(x)$	-	0	+	0	-
$f(x)$	↓	極小	↗	極大	↘

[5] 次の関数の最大値, 最小値を求めよ。 (1), (2) では $0 \leq x \leq 2\pi$ とする。

$$(1) y=\sin 2x + 2\sin x$$

$$(2) y=\sin x + (1-x)\cos x$$

$$(3) y=x+\sqrt{1-4x^2}$$

$$(4) y=(x^2-1)e^x \quad (-1 \leq x \leq 2)$$

解答 (1) $x=\frac{\pi}{3}$ で最大値 $\frac{3\sqrt{3}}{2}$, $x=\frac{5}{3}\pi$ で最小値 $-\frac{3\sqrt{3}}{2}$

(2) $x=\pi$ で最大値 $\pi-1$, $x=2\pi$ で最小値 $1-2\pi$

(3) $x=\frac{\sqrt{5}}{10}$ で最大値 $\frac{\sqrt{5}}{2}$, $x=-\frac{1}{2}$ で最小値 $-\frac{1}{2}$

(4) $x=2$ で最大値 $3e^2$, $x=\sqrt{2}-1$ で最小値 $2(1-\sqrt{2})e^{\sqrt{2}-1}$

解説

$$(1) y'=2\cos 2x + 2\cos x = 2(2\cos^2 x - 1) + 2\cos x = 2(2\cos^2 x + \cos x - 1) = 2(\cos x + 1)(2\cos x - 1)$$

$0 \leq x \leq 2\pi$ の範囲で $y'=0$ となる x の値は

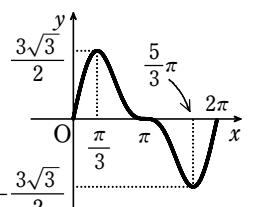
$$\cos x = -1 \text{ から } x=\pi, \cos x = \frac{1}{2} \text{ から } x=\frac{\pi}{3}, \frac{5}{3}\pi$$

$0 \leq x \leq 2\pi$ における y の増減表は次のようにある。

x	0	...	$\frac{\pi}{3}$...	π	...	$\frac{5}{3}\pi$...	2π
y'	+	0	-	0	-	0	+	0	-
y	0	↗	極大	↘	0	↘	極小	↗	0

よって $x=\frac{\pi}{3}$ で最大値 $\frac{3\sqrt{3}}{2}$, $x=\frac{5}{3}\pi$ で最小値 $-\frac{3\sqrt{3}}{2}$

$$(2) y'=\cos x - \cos x + (1-x)(-\sin x)=(x-1)\sin x$$



$0 \leq x \leq 2\pi$ の範囲で $y'=0$ となる x の値は
 $x-1=0$ から $x=1$, $\sin x=0$ から $x=0, \pi, 2\pi$
 $0 \leq x \leq 2\pi$ における y の増減表は次のようにある。

x	0	...	1	...	π	...	2π
y'		-	0	+	0	-	
y	1	↘	極小	↗	極大	↘	$1-2\pi$

ここで $1 < \pi-1$, $\sin 1 > 0 > 1-2\pi$
よって $x=\pi$ で最大値 $\pi-1$, $x=2\pi$ で最小値 $1-2\pi$

(3) 定義域は, $1-4x^2 \geq 0$ から $-\frac{1}{2} \leq x \leq \frac{1}{2}$ $\dots \dots \textcircled{1}$

$$-\frac{1}{2} < x < \frac{1}{2} \text{ のとき } y'=1+\frac{-8x}{2\sqrt{1-4x^2}}=\frac{\sqrt{1-4x^2}-4x}{\sqrt{1-4x^2}}$$

$$y'=0 \text{ とすると } \sqrt{1-4x^2}=4x \quad \dots \dots \textcircled{2}$$

両辺を平方して整理すると $20x^2=1$

$$\text{これを解いて } x=\pm\frac{1}{2\sqrt{5}}=\pm\frac{\sqrt{5}}{10}$$

$$\text{②より, } x \geq 0 \text{ であるから } x=\frac{\sqrt{5}}{10}$$

①における y の増減表は次のようにある。

x	-\$\frac{1}{2}\$...	\$\frac{\sqrt{5}}{10}\$...	\$\frac{1}{2}\$
y'	+	0	-	+	
y	-\$\frac{1}{2}\$	↗	極大	↘	\$\frac{1}{2}\$

よって $x=\frac{\sqrt{5}}{10}$ で最大値 $\frac{\sqrt{5}}{2}$, $x=-\frac{1}{2}$ で最小値 $-\frac{1}{2}$

$$(4) y'=2xe^x+(x^2-1)e^x=(x^2+2x-1)e^x$$

$$y'=0 \text{ とすると, } e^x > 0 \text{ であるから } x^2+2x-1=0$$

これを解いて $x=-1 \pm \sqrt{2}$

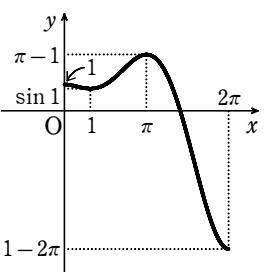
$-1 \leq x \leq 2$ であるから $x=-1+\sqrt{2}$

$$\text{このとき } x^2-1=-2x=-2(-1+\sqrt{2})=2(1-\sqrt{2})$$

$-1 \leq x \leq 2$ における y の増減表は次のようにある。

x	-1	...	\$\sqrt{2}-1\$...	2
y'	-	0	+	+	
y	0	↘	極小	↗	\$3e^2\$

よって $x=2$ で最大値 $3e^2$, $x=\sqrt{2}-1$ で最小値 $2(1-\sqrt{2})e^{\sqrt{2}-1}$



$$(1) y'=\frac{(2x-3)(x^2+3)-(x^2-3x)\cdot 2x}{(x^2+3)^2}=\frac{3x^2+6x-9}{(x^2+3)^2}=\frac{3(x+3)(x-1)}{(x^2+3)^2}$$

$y'=0$ とすると $x=-3, 1$

y の増減表は次のようにある。

x	...	-3	...	1	...
y'	+	0	-	0	+
y	↗	極大	↘	極小	↗

$$\text{また } \lim_{x \rightarrow \infty} y = \lim_{x \rightarrow \infty} \frac{1-\frac{3}{x}}{1+\frac{3}{x^2}} = 1 \quad \text{同様にして } \lim_{x \rightarrow -\infty} y = 1$$

ゆえに $x=-3$ で最大値 $\frac{3}{2}$, $x=1$ で最小値 $-\frac{1}{2}$

$$(2) y'=-e^{-x}+1$$

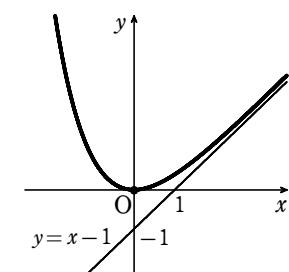
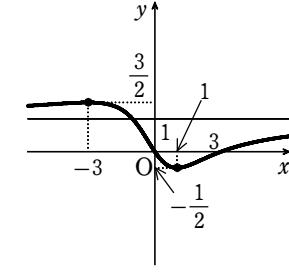
$$y'=0 \text{ とすると } e^{-x}=1 \quad \text{よって } x=0$$

y の増減表は次のようにある。

x	...	0	...
y'	-	0	+
y	↘	極小	↗

$$\text{また } \lim_{x \rightarrow \infty} y = \lim_{x \rightarrow \infty} \left(\frac{1}{e^x} + x - 1 \right) = \infty$$

ゆえに $x=0$ で最小値 0, 最大値はない



$$[7] \text{ 関数 } f(x)=\frac{a \sin x}{\cos x+2} \quad (0 \leq x \leq \pi) \text{ の最大値が } \sqrt{3} \text{ となるように定数 } a \text{ の値を定めよ。}$$

解答 $a=3$

解説

$$f'(x)=\frac{a[\cos x(\cos x+2)-\sin x(-\sin x)]}{(\cos x+2)^2}=\frac{a(2\cos x+1)}{(\cos x+2)^2}$$

[1] $a=0$ のとき

常に $f(x)=0$ であるから, 最大値が $\sqrt{3}$ になることはない。

よって, 不適。

[2] $a>0$ のとき

$$f'(x)=0 \text{ とすると } \cos x=-\frac{1}{2}$$

$0 \leq x \leq \pi$ であるから $x=\frac{2}{3}\pi$

$0 \leq x \leq \pi$ における $f(x)$ の増減表は右のようになり,

$$x=\frac{2}{3}\pi \text{ で極大かつ最大となる。}$$

$$\text{ゆえに, 最大値は } f\left(\frac{2}{3}\pi\right)=\frac{\frac{\sqrt{3}}{2}a}{-\frac{1}{2}+2}=\frac{\sqrt{3}}{3}a$$

$$\text{よって } \frac{\sqrt{3}}{3}a=\sqrt{3}$$

したがって $a=3$ これは $a>0$ を満たす。

[3] $a < 0$ のとき

$0 \leq x \leq \pi$ における $f(x)$ の増減表は右のようになる。

ゆえに、最大値は $f(0) = f(\pi) = 0$

よって、不適。

[1]~[3] から $a = 3$

x	0	...	$\frac{2}{3}\pi$...	π
$f'(x)$	-	0	+		
$f(x)$	0	↘	極小	↗	0

[8] 関数 $f(x) = \frac{x+a}{x^2+1}$ ($a > 0$) について、次のものを求めよ。

(1) $f'(x) = 0$ となる x の値

(2) (1)で求めた x の値を α, β ($\alpha < \beta$) とするとき、 β と 1 の大小関係

(3) $0 \leq x \leq 1$ における $f(x)$ の最大値が 1 であるとき、 a の値

〔解答〕 (1) $x = -a \pm \sqrt{a^2 + 1}$ (2) $\beta < 1$ (3) $a = \frac{3}{4}$

〔解説〕

$$(1) f'(x) = \frac{x^2 + 1 - (x+a) \cdot 2x}{(x^2 + 1)^2} = -\frac{x^2 + 2ax - 1}{(x^2 + 1)^2}$$

$$f'(x) = 0 \text{ とすると } x^2 + 2ax - 1 = 0$$

$$\text{これを解いて } x = -a \pm \sqrt{a^2 + 1}$$

$$(2) \alpha < \beta \text{ であるから } \beta = -a + \sqrt{a^2 + 1}$$

$$\text{よって } \beta - 1 = -a - 1 + \sqrt{a^2 + 1} = \frac{(a^2 + 1) - (a + 1)^2}{\sqrt{a^2 + 1} + a + 1} = \frac{-2a}{\sqrt{a^2 + 1} + a + 1}$$

$$a > 0 \text{ であるから } \beta - 1 < 0 \quad \text{したがって } \beta < 1$$

$$(3) f'(x) = -\frac{(x-\alpha)(x-\beta)}{(x^2+1)^2} \text{ であり}$$

$$\alpha = -a - \sqrt{a^2 + 1} < 0$$

また、(2)より $0 < \beta < 1$ であるから、

$0 \leq x \leq 1$ における $f(x)$ の増減表は右のようになる。

ゆえに、 $0 \leq x \leq 1$ の範囲において、 $f(x)$ は $x = \beta$ のとき極大かつ最大となり、その値

$$\text{は } f(\beta) = \frac{\beta + a}{\beta^2 + 1} \quad \text{最大値は 1 であるから } \frac{\beta + a}{\beta^2 + 1} = 1$$

$$\text{分母を払って } \beta + a = \beta^2 + 1$$

$$\text{よって } a = \beta^2 - \beta + 1 \quad \dots \dots \text{ ①}$$

$$\beta \text{ は } x^2 + 2ax - 1 = 0 \text{ の解であるから } \beta^2 + 2a\beta - 1 = 0$$

$$\text{これに ① を代入して整理すると } 2\beta^3 - \beta^2 + 2\beta - 1 = 0$$

$$\text{ゆえに } (\beta^2 + 1)(2\beta - 1) = 0 \quad \beta^2 + 1 > 0 \text{ であるから } \beta = \frac{1}{2}$$

$$\text{① に代入して } a = \left(\frac{1}{2}\right)^2 - \frac{1}{2} + 1 = \frac{3}{4}$$

[9] 3 点 $O(0, 0)$, $A\left(\frac{1}{2}, 0\right)$, $P(\cos\theta, \sin\theta)$ と点 Q が、条件 $OQ = AQ = PQ$ を満たす。

ただし、 $0 < \theta < \pi$ とする。

(1) 点 Q の座標を求めよ。

(2) 点 Q の y 座標の最小値とそのときの θ の値を求めよ。

〔解答〕 (1) $\left(\frac{1}{4}, \frac{2-\cos\theta}{4\sin\theta}\right)$ (2) $\theta = \frac{\pi}{3}$ のとき最小値 $\frac{\sqrt{3}}{4}$

〔解説〕

(1) $OQ = AQ$ より、点 Q は線分 OA の垂直二等分線

上にあるから、 $Q\left(\frac{1}{4}, y\right)$ とおける。

$OQ = PQ$ より $OQ^2 = PQ^2$ であるから

$$\left(\frac{1}{4}\right)^2 + y^2 = \left(\frac{1}{4} - \cos\theta\right)^2 + (y - \sin\theta)^2$$

$$\text{整理して } 2ysin\theta = 1 - \frac{1}{2}\cos\theta$$

$0 < \theta < \pi$ から $\sin\theta \neq 0$

$$\text{よって } y = \frac{2 - \cos\theta}{4\sin\theta} \quad \dots \dots \text{ ①} \quad \text{ゆえに } Q\left(\frac{1}{4}, \frac{2 - \cos\theta}{4\sin\theta}\right)$$

(2) ① から

$$\frac{dy}{d\theta} = \frac{1}{4} \cdot \frac{\sin\theta \cdot \sin\theta - (2 - \cos\theta) \cdot \cos\theta}{\sin^2\theta} = \frac{1 - 2\cos\theta}{4\sin^2\theta}$$

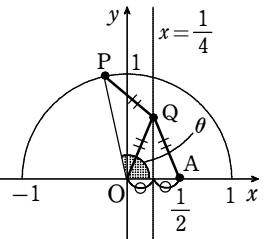
$$\frac{dy}{d\theta} = 0 \text{ とすると } \cos\theta = \frac{1}{2}$$

$$0 < \theta < \pi \text{ から } \theta = \frac{\pi}{3}$$

$0 < \theta < \pi$ における y の増減表は右のようになるから、 y は

$$\theta = \frac{\pi}{3} \text{ のとき最小値 } \frac{\sqrt{3}}{4}$$

をとる。



θ	0	...	$\frac{\pi}{3}$...	π
$\frac{dy}{d\theta}$	-	0	+		
y	↘	極小	$\frac{\sqrt{3}}{4}$	↗	

[10] 半径 1 の球に、側面と底面で外接する直円錐を考える。この直円錐の体積が最小となるとき、底面の半径と高さの比を求めよ。

〔解答〕 $\sqrt{2} : 4$

〔解説〕

直円錐の高さを x , 底面の半径を r , 体積を V とすると, $x > 2$

$$\text{であり } V = \frac{1}{3}\pi r^2 x \quad \dots \dots \text{ ①}$$

球の中心を O として、直円錐をその頂点と底面の円の中心を通る平面で切ったとき、切り口の三角形 ABC , および球と $\triangle ABC$ との接点 D, E を右の図のように定める。

$\triangle ABE \sim \triangle AOD$ であるから $AE : AD = BE : OD$

$$\text{すなわち } x : \sqrt{(x-1)^2 - 1^2} = r : 1$$

$$\text{よって } r = \frac{x}{\sqrt{x^2 - 2x}} \quad \dots \dots \text{ ②}$$

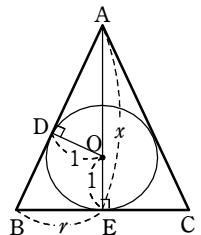
$$\text{② を ① に代入して } V = \frac{\pi}{3} \cdot \left(\frac{x}{\sqrt{x^2 - 2x}}\right)^2 \cdot x = \frac{\pi}{3} \cdot \frac{x^2}{x-2}$$

$$\text{よって } \frac{dV}{dx} = \frac{\pi}{3} \cdot \frac{2x(x-2) - x^2 \cdot 1}{(x-2)^2} = \frac{\pi}{3} \cdot \frac{x(x-4)}{(x-2)^2}$$

$$\frac{dV}{dx} = 0 \text{ とすると, } x > 2 \text{ であるから } x = 4$$

$x > 2$ のとき V の増減表は右のようになり、体積 V は $x = 4$ のとき最小となる。このとき、② から $r = \sqrt{2}$

ゆえに、求める底面の半径と高さの比は $r : x = \sqrt{2} : 4$



x	2	...	4	...
$\frac{dV}{dx}$	-	0	+	
V	↘	極小	↗	